

リーダーが磨かなければならない3つの姿勢

リーダーになるためには、正しい姿勢とそれを磨くための努力が必要です。

「散歩のついでに富士山に登った人はいない」ように、なんとなく会社において、漠然と過ごしていて優れたリーダーになった人もいません。まず、リーダーの持つべき資質とは何か。松下幸之助さんは「素直さ」「謙虚さ」を挙げています。

素直さも謙虚さも持ち合わせておらず、自分の意見に凝り固まって他人の意見を聞けない人は、そこで成長が止まり、真のリーダーにはなれません。ただし「素直さ」「謙虚さ」はリーダーの資質の基礎の部分であり、私はその上に「前向き」「利他心」「反省」の3つの姿勢を築く必要があると考えています。

■後ろ向きリーダーはやれない理由ばかり数える

まずリーダーにはチャレンジを恐れない「前向き」の姿勢が求められます。松下幸之助さんは「6割やれると思ったらやる」と決め、残りの4割の不安な部分は「努力と熱意でカバー」していたそうです。6割という数字はリーダーにより変わるとしても、チャレンジする姿勢を持つことが大切だと教えているのです。一方、チャレンジを恐れる後ろ向きのリーダーは、やれない理由ばかり数えて一歩踏み出そうとしないため、会社は環境変化に対応できなくなります。リーダーの後ろ向きの姿勢は自分事にとどまらず、会社のリスクになってしまいます。また前向きのリーダーは社員を前向きに評価します。つまり良いところ、長所を見るのです。誰でも良い面を悪い面を持ち合わせているものですが、前向きリーダーは良い面＝長所を重視します。そのためチームを作ると、それぞれの長所を生かした強いチームを作れます。後ろ向きの人は短所を見がちなので、平庸なチームしか作れません。前向きのリーダーが指揮するチームと、後ろ向きのリーダーがいるチームでは、戦う前から勝負がついています。

■口だけ「お客様第一」のリーダーもいる

「利他心」とは、お客さまや周りにいる人、社会のことを第一に考える心です。リーダーは誰でも「お客様第一」と口にします。しかし自分の金もうけの手段として「お客様第一」を掲げる自己中心的なリーダーも少なくありません。お客さまのために赤字覚悟の値段で売って損をせよと言いたいわけではありません。お客さまに良い商品・サービスを適正価格で提供するというビジネスの基本を忠実に守ることが真の「お客様第一」と言いたいのです。それは結果的に売上げを伸ばし、利益を生み出します。また「利他心」とは、自己犠牲ではありません。私の人生の師匠・藤本幸邦老師は「人生串団子」と説きました。自分、家族、会社、社会という自分に関わる全ての団子の真ん中を突き通す串のように生きなさいということです。ビジネスで良い仕事をするということは、自分も含めたすべての人を利するということです。そこには自己犠牲がありません。また、同様に、自分や会社だけの視点で見ているだけではだめで、自分や自社が社会の中でどう見られているのかを、お客さまや世の中の目で評価することがとても大切です。

■失敗するリーダーには「反省」が足りない

私は以前、リーダーの資質として「前向き」と「利他心」の二つを挙げていましたが、今は「反省」を加えています。会社を倒産させた経営者の中には、前向きで、利他心と言うほど立派ではないけれど、それほどお金に執着せず、気前良く人におごる人がいます。それなのになぜ失敗したのか。それは自らの人生や経営を「反省」しないためでした。

論語に「吾、日に三たび吾が身を省みる」とあるように、反省することはとても大切です。反省しない（できない）人は、うまく行かなかったときにその原因を追究することをしません。そして、おうおうにしてその失敗を第三者のせいにしがちで

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト

す。それでは自分自身が伸びないし、真のリーダーになることもできません。ただ以前にも書いた事ですが、反省するためには、そのベースとして正しい考えを持ち、それに照らして自らの行動を反省しなければなりません。

「前向き」「利他心」「反省」を完璧に備えている人はいないでしょうが、何となく日々を過ごして身につくものではありません。身に付ける努力を続けることが重要です。また正しい考え方で生きているか、反省の軸がぶれていないかをチェックする指針も必要です。私は就寝前に座右の書『道をひらく』（松下幸之助著）を読んで、自分がぶれていないかを確認しています。皆さんも毎日の仕事の中で「前向き」「利他心」「反省」を実践し、成功するリーダーの姿勢を磨いてください。

DIAMOND online 小宮一慶 週末経営塾より

『御中と様の使い分け』

最近頂くお手紙やハガキでも「御中」と「様」の使い方が間違っているケースも多く見られます。手紙やハガキで恥をかかないためにも「御中」や「様」の使い分けのマナーを学びましょう。

御中は組織の誰か、様は特定の人に対して使う敬称

まず、「御中」ですが、これを「組織」に対して付ける敬称であると勘違いしている人もいます。「御中」とは、その組織の誰か（誰か分からない場合など）に使う敬称です。

ですから、「ABC 株式会社 御中 山田太郎様」という表記はおかしいということが分かるはずですが、この場合は「ABC 株式会社 山田太郎様」とすべきなのです。組織に送る必要があるけど、誰に送ればいいのか分からないという場合などに「ABC 株式会社 営業部御中」というようにして用います。

つらい肩こりの解消法

肩こりは、「日本の国民病」と呼ばれることもあるほど、男女とも悩まされている人がたくさんいます。原因は、肩や首の血流が滞り、その部分に疲労物質がたまることです。夏、冷房で首や肩を冷やしたりすることも、肩こりにつながります。予防するには、肩まわりの血流をよくすること。簡単にできる肩こりの解消法をご紹介します。

「肩たたき」より「肩もみ」

肩がこると、昔から家族にトントンと肩たたきをしてもらっていましたが、しかし、げんこつで強くたたくと緊張した筋肉には逆効果です。肩こりを解消するには、肩もみがおすすめ。上手な肩もみのコツは、指先でギューギューもみずして手のひらの温もりを伝えるつもりで、ゆっくりとやさしくなでるように行うこと。この方法なら、肩もみをする人も疲れません。



1日5分「新聞紙の素振り」

竹刀を振りおろす素振りは、肩こり解消におすすめの運動です。肩より上に腕を振り上げる動きは、肩まわりに適度な筋肉をつけたり、固まった筋肉をほぐしたりします。さらに、血流を促進して、こりを改善する効果も期待できます。肩こり防止のために竹刀を買い求める人もいますが、新聞紙を丸めたものでも同じ効果が得られます。

東北から元気発進！！ワクワク"夢実現"プロジェクト